

日本沙漠学会第 27 回学術大会公開シンポジウム

砂漠化の歴史を編む

主催：日本沙漠学会

共催：鳥取大学乾燥地研究センター

4D プロジェクト(代表：篠田雅人)



ひとと自然の交わる場所には土地利用があり、その持続性こそが人類の存続を保証します。「砂漠化の歴史」に関する知見を食料生産革命以降の人類史のなかで位置づけ、砂漠化の進行と農牧業・人間活動の相互作用を世界的に俯瞰するとともに、世界の乾燥地で栄えた四大文明の盛衰や遊牧の持続性との関連について考えます。



聴講

5月28日(土)14:40~18:10

無料

乾燥地研究センター多目的室

篠田 雅人(名古屋大学・大学院環境学研究科)

趣旨説明

北川 浩之(名古屋大学・宇宙地球環境研究所)

地中海東岸レヴァント地方の過去 20 万年間の水文変動を探る

- ICDP 死海深層掘削プロジェクト(ICDP-DSDDP)

辻本 壽(鳥取大学・乾燥地研究センター)

文明の礎たる作物と家畜から見た人と自然のせめぎあい

有村 誠(東海大学・文学部)

古代西アジアにおける農業の変遷:初期農耕集落期から都市出現期までのプロセス

藤巻 晴行(鳥取大学・乾燥地研究センター)

中東地域の古代および中世における農地の塩類化とその教訓

北村 義信(鳥取大学・乾燥地研究センター)

アラル海流域における人間活動の変遷と塩類化

コメントと総合討論(司会:山中央和)

縄田 浩志(秋田大学・国際資源学研究科):西アジアの生業史の視点から

山中央和(鳥取大学・乾燥地研究センター):中国の砂漠化史の視点から

お問い合わせ先

日本沙漠学会第 27 回学術大会事務局

鳥取大学農学部 齊藤忠臣

TEL 0857-31-5391 jaals2016t@gmail.com